

令和7年度 全国学力・学習状況調査(6年生)の結果と今後の取り組み

小城市立三里小学校

国語の概要

○国語全体の正答率は、県及び全国の平均正答率を大きく上回りました。

・領域についても、全領域が県・全国共に正答率を大きく上回りました。

・観点においても、全観点が県・全国共に正答率を大きく上回りました。

分析結果と本校の課題について

(○○は優れた点、●は課題のある点)

言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことがおおむねできていました。	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことがおおむねできていました。	◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことがよくできていました。	◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることがよくできていました。	◎図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが全員できていました。	◎時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることが全員できていました。

今後の対応

・「読むこと」の領域に関して、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られました。そのため、図表の役割を明確にする問いかけを工夫し、文章と図表の対応を線で結ぶ活動を取り入れ、文章と図表の関係性に気付かせるようにします。

算数の概要

○算数全体の正答率は、県及び全国の平均正答率を大きく上回りました。

・領域ごとには、「変化と関係」が全国の正答率をやや上回り、県の正答率は大きく上回りました。その他全ての領域においては、県・全国を大きく上回りました。

・観点においては、全観点が県・全国共に大きく上回りました。

分析結果と本校の課題について

(○は優れた点、●は課題のある点)

数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことが全員できていました。 ●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題が見られました。	◎角の大きさについての理解が全員できていました。 ●台形の意味や性質についての理解に課題が見られました。	●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。	◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことが全員できていました。	○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることがよくできていました。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られました。

今後の対応

・題意を自分でつかめるように問題提示を工夫します。

・図形の定義の理解が深まるよう、図形の性質を言葉・図・記号で説明する活動を通じて、数学的な表現力を高める学習を適宜させるようにします。

・割合や分数では、数直線で表したり、分かっていることを書き込んだりする方法を徹底させます。

理科の概要

○理科全体の正答率は、県及び全国の平均正答率を大きく上回りました。

・領域ごとには、「『粒子』を柱とする領域」が全国の正答率をやや下回り、県の正答率はやや上回りました。

その他全ての領域においては、県・全国を大きく上回りました。

・観点においては、全観点が県・全国共に大きく上回りました。

分析結果と本校の課題について

(○は優れた点、●は課題のある点)

「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識がよく身に付いていました。 ●乾電池のつなぎ方に関する知識があまり身に付いていませんでした。	●身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていませんでした。	◎ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が全員身に付いていました。 ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな課題を見だし、表現することに課題が見られました。	◎氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解することが全員できていました。

今後の対応

・金属の性質や乾電池のつなぎ方の理解のために、電気を通すかどうかの実験や磁石に引き付けられるかの実験といった体験を通して理解の促進を図ります。また、磁石を使ったゲームや電気が通る素材で回路を作る工作といった遊びやものづくりを取り入れます。

・レタスの発芽条件を通じた思考力・表現力の育成のために、「なぜ光が必要なのだろう?」「水がないとどうなる?」など、理由を考える問いを投げかけ、思考を深めるような工夫をします。

生活習慣に関する分析結果「質問紙(意識)調査から」

【数値が特に高かった項目】

質問番号	調査の項目
1	朝食を毎日食べていますか。
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
8	人が困っているときは、進んで助けていますか。
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
12	学校に行くのは楽しいと思いますか。
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
67	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか。

68	理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか。
----	--

【数値が低かった項目】

質問番号	調 査 の 項 目
23	新聞を読んでいますか。

〈分析と取り組み〉

○「学校に行くのは楽しい」「先生が認めてくれている」と感じている児童が多く、安心感と自己肯定感が高いことが伺えました。また、学級会や協力的な課題解決の場面で、民主的な学級運営が機能していると言えます。

○「人の役に立ちたい」「いじめはいけない」「困っている人を助ける」など、他者への思いやりや倫理観が育っていることが伺えました。道徳の授業で「考えを深める」「話し合う」活動が定着しており、内面の成長が促されていると言えます。

○国語・算数・理科の授業が「将来役に立つ」と感じている児童が多く、学習の目的意識が育っていることが伺えます。また、理科では「観察・実験」「仮説を立てる」など、探究的な学びへの関心が高いことが分かりました。

●新聞離れの傾向は、情報取得手段やライフスタイルの変化が背景にあると思われます。例えば、「新聞を読む時間」や「新聞スクラップ活動」を授業や朝の会で取り入れるなど、教室で新聞を活用する時間を設けたり、読みやすい新聞を紹介したりするといった新聞を活用した何らかの学びの促進を今後検討していきます。また、学級通信などで「新聞を読む習慣の大切さ」を伝え、家庭での新聞活用を促し、家庭や育友会とも連携を図っていきます。